

## 「人生のやる気デザイン」研究部会（第7回）

日時：2020年11月20日（月）10：00～12：15

場所：オンライン会議（ZOOMにより開催）

出席：渡辺弥生・倉住友恵・杉本希映・中井大介・中谷素之 各兼任研究員

吉久知延所長・山口和人・泉水里香

欠席：榎本淳子兼任研究員・金沢千秋

内容：（1）渡辺弥生研究員研究報告

①人生の「やる気」と学校で求められている「やる気」

②大きなことをやってのける人、すごい苦勞、なぜ、そこまで走ろうとするか

・関連文献紹介：「モラルを育む〈理想〉の力：人はいかにして道徳的に生きられるのか」

ウィリアム・デイモン(著)、アン・コルビー(著)、渡辺弥生・山岸明子・渡邊晶子(翻訳)

・参考論文紹介：「Development of emotional literacy and empathy among elementary-aged Japanese children」Yayoi Watanabe, Yurika Motomura, and Elina Saeki (2020 International School Psychology Association)

（2）中谷素之研究員研究報告

◆ 多文化教室環境と動機づけのメカニズム：問題意識 グローバル化・多様化する社会における学校教育の役割 →多文化的包摂の涵養

◆ 多文化包摂的な教室環境→学級環境づくりの重要性

外国籍児童とわが国の児童がいかに肯定的に相互作用し、学習および動機づけをさせるよりよい指導方略・環境づくりをするかは重大な課題。教室環境のもつ動機づけ過程のメカニズムの質的・量的アプローチによる国際比較検討の調査を行っている。調査内容、結果の予想を発表。

（3）杉本希映研究員研究報告

◆ Gritの規定要因としてのマインドセットの文献紹介

1. グリット研究とマインドセット研究の行動経済学的な含意—労働生産性向上の議論への新しい視点—（川西・田村，2019）レビュー論文

2. グリットを支える成長マインドセットとは何か？—知能、人格、グリットの生得性信念に焦点を当てた検討—（竹橋・豊沢，2019）

3. 児童版マインドセット尺度における妥当性の検討（鈴木・山口・伊與田・今井，2019）

これまで検討した中では、グリットの規定要因として、家庭環境、教育環境、個人特性が挙げられた。これをもとに大学生で質問紙調査を実施していくか検討中